

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第15回 春の名所に思うカーボンニュートラル

日本銀行仙台支店長 岡山 和裕



私は色々と出かけるのが好きだ。その際の情報源だが、もちろんガイドブックも見るが、地元紙や地元テレビのニュースが、行きたい所を探すのに適している。今や、全国どこにいてもインターネットが繋がれば、各地の地元ニュースを見ることができるのだ。その季節ならではの風光明媚な場所を教えてくれる。

今年の4月から5月にかけて、山形、岩手に行ってみた。山形は、3月中旬から5月中旬にだけ見ることができる、白川湖の「水没林」があることを知ったからだ。また、岩手は、八幡平頂上に、積雪が解けてくると「ドラゴンアイ」と言われるようになる湖に行きたかったからだ。

山形の白川湖の「水没林」は、文字通り、水に沈んでいる林だ。見ることができる期間が限定されているのはなぜか調べてみたところ、飯豊連峰に降った雪が解けて、その雪解け水が白川湖というダム湖に流れ込んで水位が上がり、夏前にダムの水を放流して、ダムの水位を下げるかららしい。

そこでの風景はまさに絶品。透明な湖面に新緑の青葉がきれいに映っているのだ。思わず何枚も写真を撮った。

見て回っていると、見に来ていた人同士が「今年はさらに良い眺めだね～！きっと、昨年よりも雪解けが早いので、水位が高いのだね～」と話しているのが聞こえた。そうかあ！今年は暖冬だから、雪解けが早いんだあ！

次は、岩手の通称「ドラゴンアイ」。そこにたどり着くには八幡平アスピーテラインの雪の回廊を通り抜けるのだが、これがまた絶景。そして、駐車場からドラゴンアイ(正式名称は鏡沼)までは雪道を20分ほど歩いていくのだ。持ってきた長靴を履いて、雪道を闊歩。そして、いよいよ到着。私が見に行った時には、池の縁に近い場所は雪解けしていたが、まだ目の真ん中が雪解けしておらず、完全には開眼していなかった。だが、開眼前のド

ラゴンアイを見ることができて、大満足だった。

ここでも、以前にも見に来たことがあるだろう人が「今年は、雪解けが例年よりも早いね～」と言っているのが聞こえた。そうかあ！ここにも暖冬が影響しているんだ！

そう言えば、雪の回廊の高さは、蔵王エコーラインも含めて、例年よりも低いらしいし、ゴールデン・ウィーク中に一部で雪崩も発生したらしい。

そうになると、色々な地球温暖化に関するニュースが目にとまった。①今年は例年よりも気温が高いため、山火事が多いこと、②田植えの稲の生育が例年よりも早いので、田植えを数日前倒したこと、③宮城の神社は春の例大祭に合わせて、ボタンを植えていたが、例大祭の頃にはボタンは枯れてしまうので、ボタンよりも開花時期が遅いシャクヤクを植えるようになったことなど。

様々なことが地球温暖化の影響を受けているのだ。それに対して、人間は何をしているのだろうかと思ったところ、雪解け水が自然に流れ出るダムでの取り組みを知った。それは、岩手県の胆沢ダムでの取り組みだ。一部に未活用のまま下流へ放流されている水を有効活用するために、雪解け前にダムの水位を下げて、その際の放流水で水力発電量を増やす取り組みを3年前から始めているのだ。これこそ、人間の知恵を使ったカーボンニュートラルへの取り組みではないか！

私も、何かできることを探さないといけないと思った。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任